

考古博物館への思い

考古博物館に勤務して2年目。たかが2年目であるが、毎日、日南市と西都市を自家車で往復し、考古博物館で勤務していると、どんどん考古博物館に対して情が湧いてくる。私は、元々小学校の教員。21年間の勤務後、県埋蔵文化財センターでの勤務を希望し、3年間、発掘調査・整理作業・報告書作成・教育普及に関わることが出来た。埋文センター勤務の次がここ西都原考古博物館での勤務である。

考古博物館には、大人の方は勿論であるが、児童生徒がたくさん訪れる。春や秋は遠足や見学学習で、夏は自由研究の題材を求めて、週末は家族やグループで訪れる。考古博物館勤務1年目の春、私は勝手に考古博物館での自分のミッションを「児童生徒を含む考古学初心者に考古学の楽しさを伝えること。」と、決めてしまった。だれにも言われていないのに自分勝手に決めてしまった。

考古博物館での仕事は発掘調査や研究、収蔵、展示、教育普及、国際交流等々、多岐に渡っている。多岐に渡り責任も重い仕事を、限られた職員で遂行していることに驚異を感じる時もある。「自分ももう少し貢献できれば・・・。」と思う場面によく遭遇する。そんな時に思うのが、「貢献が十分でない職務がある分、教育普及で貢献したい。」ということである。

今年度も私は、児童生徒を前に、展示室や古代生活体験館で、時には博物館を離れて考古博物館の教育普及にあたっている。話をすることが多く、話の内容は展示室紹介、西都原古墳群や考古学の話、博物館の仕事に関して、各展示会や講座のPR・・・。5分も経つと、饒舌に熱く話している自分に気付く。勿論、講座や体験ブース（各イベント）での体験活動等を通しての教育普及にも力を入れている。

とにかく、ここ考古博物館に来て頂ければ、この考古博物館がいかに素晴らしい博物館であるかを理解して頂けると考えている。そして、2回、3回・・・と来て頂ければ、さらに考古博物館のよさを分かって頂けると、私は思っている。

早いもので、今年の夏も終わる。本当の事を言うと、私自身には考古学の楽しさを伝えるための経験や知識はまだまだ足りない。それでも、昨日より今日、今日より明日と様々な勉強を続けていきたいと思う。だれにも言われていないのに勝手に考古博物館での自分のミッションを「児童生徒を含む考古学初心者に考古学の楽しさを伝えること。」と、決めてしまったのだから・・・。

(泊 俊一郎)